

# 京都府支部だより

## 家原典之

### 1 支部の概況

京都の透析の歴史を紐解きますと、1960年に京都大学で原・澤西両先生のもとで透析が行われたのが最初といわれています。1969年には市内の病院にも透析室が開設されています。京都透析医会は1980年に発足し、2004年以降、京都支部として日本透析医会に参画しております。京都透析医会の歴史と医会の活動については2005年と2010年の本会誌で報告されていますので、本編ではそれ以降の活動について報告させていただきます。

医会執行部は会長1名、副会長2名、理事19名、監事2名で構成されています。現在会員数は140名（2015年4月末現在）です。

会長は2010年4月に今田直樹先生（西陣病院腎臓・泌尿器科部長）が馬淵先生を引き継ぐ形で就任され、本年4月に家原典之（京都市立病院腎臓内科部長）が引き継いでおります。理事会は従来年2回開催（毎年10～11月頃と3月の総会時）でしたが、多様な問題に対して適時に対応するために、2011年1月以降、年4回（1月、3月の総会時、7月、11月）に変更されました。

### 2 学術活動

学術活動は、支部が主催する年1回の学術総会と、年2回の京都透析症例検討会（共催）を定期的に開催しております。学術総会は特別講演と10～15題の一般演題で構成され、例年3月に開催しています。参加

者は医師に限らず透析に関わる医療関係者としており、日本透析医学会の京都地方会を兼ねておりますので、資格獲得を目指す若手医師や臨床工学技士の意欲的な発表が多く、白熱した討議が行われます。最近の5年間の特別講演の内容と一般演題数を列記します。

① 京都透析医会学術集会（例年3月、第3日曜日開催）

第30回 特別講演「今日のCKD-MBD診療戦略」  
新潟大学高次救命災害治療センター（准教授） 風間順一郎先生

一般演題 12 演題 2010.3.21

第31回 特別講演は東日本大震災直後のため延期

一般演題 11 演題 2011.3.20

第32回 特別講演「CKD患者における心血管合併症対策」

東邦大学医療センター大橋病院腎臓内科（准教授）

常喜信彦先生

一般演題 11 演題 2012.3.18

第33回 特別講演「腎臓内科医が腎臓病と透析の患者さんにできること」

京都大学大学院医学研究科腎臓内科学講座（教授）

柳田素子先生

一般演題 13 演題 2013.3.17

第34回 特別講演「腎臓リハビリテーションの実践と効果」

東北大学医学系研究科障害科学専攻内部障害学分野

（専攻長・教授） 上月正博先生

一般演題 13 演題 2014.3.16

### 第35回 特別講演「鉄代謝から今後の腎性貧血治療を考える」

兵庫医科大学内科学腎・透析科（准教授） 倉賀野隆裕先生

一般演題 13 演題 2015.3.15

### ② 京都透析症例検討会（例年5・10月開催）

第21回 2012.5.17 一般演題 なし（共催各社による情報提供）

特別講演「腎臓病を治る病気にするために」

京都大学大学院医学研究科腎臓内科学（教授）

柳田素子先生

第22回 2012.11.19 一般演題 4 演題

第23回 2013. 5.23 一般演題 5 演題

第24回 2013.11.14 一般演題 5 演題

第25回 2014. 5.15 一般演題 4 演題

第26回 2014.11. 6 一般演題 4 演題

第27回 2015. 5.14 一般演題 3 演題

特別講演「CKD患者への療法説明の重要性」

新百合ヶ丘総合病院腎臓内科（部長） 篠崎倫哉先生

### ③ その他の学術活動

- 2009年4月～：兵庫透析医会と共同で、TRAP試験（維持透析患者における鉄剤とEPO製剤使用量と患者生命予後に関する前向き観察研究）の実施を決定。（2010年2月：医会主導ではなく、施設単位での参加）
- 京都腎臓病総合対策推進協議会（2013年～）  
「京都の慢性腎臓病対策に関する提言書（案）」に  
関してのバックアップを決定。  
「毎月血圧時々尿検査セミナー」2014年11月8日  
を共催。
- 2015年2月26日開催のKyoto ADPKD Expert Meetingにさいして、医会会員へのアンケート調査を実施。

## 3 災害対策

前会長の今田直樹先生は、現副会長の橋本哲也先生を中心として災害対策に重点を置かれ、行政・日本透析医会・京都臨床工学技士会との連携体制を発足されるなど安全・安心のための重要な施策を数多く実行されました。

① 2009年3月に緊急時連絡網の構築を行いました。京都臨床工学技士会主導で、災害時府下連絡

網を初めて構築（Faxでの緊急時連絡網で、詳細は2010年当会誌にて既報）。

② 2011年3月に東日本大震災時の活動を行いました。京都府下透析施設への患者受け入れ可否アンケート調査。日本透析医会・京都府庁・京都府医師会と連携し、府下への被災患者受け入れ体制の確立。日本透析医学会の要請により義援金（50万円）支援。

③ 2012年7月以降、京都府（健康福祉部医療課）との府下透析施設における地震対策に関して数回の会合をもち、透析患者が災害弱者であることの説明から始まって、京都府下の各施設における地震対策のアンケート調査による現状把握、連絡網構築やMCA無線・衛星電話など災害対策に関しての予算化について交渉を行いました。残念ながら予算獲得には至りませんでした。2013年設立の京都府災害時要配慮者避難支援センターの構成団体として参画し、大飯・高浜原発再稼働に備えたUPZ圏内よりの住民避難に関しての会議への参加と、提言活動を行っています。

こうした活動が、行政に透析患者が災害弱者であることを認知させる起点となり、今年の「京都健康医療よろずネット」の更改で、災害時受け入れ透析患者数を入力できるようになり、さらにその情報が厚生労働省の広域災害救急医療情報システム（EMIS）に連動するようになるなど、府県の境を越えた災害対策へとつながっています。

④ 日本透析医会災害時情報ネットワークを利用した京都府単独の災害時情報ネットワーク訓練も実施しており、災害の設定条件を変更しながら、今後も訓練を継続する予定です。

- 京都府下における第1回災害時情報ネットワーク訓練

2013年5月27日に実施

81施設中42施設が参加。登録件数：107件、総登録者数：80名

- 京都府下における第2回災害時情報ネットワーク訓練

2014年5月19日に実施

82施設中41施設が参加。登録件数：98件、総登録者数：73名

⑤ 近畿透析医会懇話会（2013年10月19日開催）

において、京都透析医会の災害対策の取り組みについてプレゼンテーションを行い、同時に各県支部の取り組みについて情報交換を行っています。

- ⑥ 台風・水害時のアンケート調査を実施。京都府では、2013年9月に台風18号による豪雨で桂川・宇治川が氾濫し大きな被害を受けたことや、2014年10月に台風19号の襲来を受けたため、府下透析施設での水害・台風時の対応に関するアンケート調査を2015年1月に実施しました。
- ⑦ 重要な情報発信を拡充するため、当会のホームページを開設しました（2012年4月～）。下記等が閲覧可能です。
- 災害時優先通信の指定確保のお願い
  - 災害時情報伝達訓練案内ならびに府下での参加状況の報告
  - 夏の電力不足時の計画停電時の案内
  - 府下の透析施設マップ

#### 4 感染対策

- ① 2009年における新型インフルエンザ対策については既報の通りです。
- ② 京都府保健福祉部健康対策課感染対策部門よりの依頼を受け、2014年7月27日開催の「透析施設のHIV等血液感染症予防に関する研修会」開催のサポートを実施しました。
- 対象：透析施設を有する医療機関の医師及び看護師等医療従事者
- 内容：  
「HIV等血液感染症と感染予防対策」  
京都大学血液・腫瘍内科（助教） 白川康太郎先生

「HIV・エイズ患者の透析治療の現状」

大阪医療センター腎臓内科（医長） 伊藤孝仁先生

#### 5 今後の課題

現在は、透析患者数の増加からやや減少が見込まれるようになり、患者の高齢化と多様化に伴う倫理的な問題、医療経済的な諸問題、貧血治療やCKD-MBD等の新たな知見、さらには先進医療の腎臓分野への展開など、医療技術・治療法の進歩以外にも我々がアップデートしていかなければならない事項は多岐にわたるようになってきました。我々が、これらの社会的要請にも応えつつ、将来の京都の腎不全・透析医療の発展に貢献するためには、できるだけ多くの若い医師に参加していただいて協調発展していくべきです。そのためにも魅力的な会になるよう、京都大学・京都府立医科大学との連携も重視して資質の向上を図っていく必要があります。また、京都は南北に細長く地域の特性も様々です。会員各位の声をくみ取り、会員の希望に応えるような活動も充実させていく必要があります。そのためには組織の改変も検討課題となっております。

京都は先達の努力によって、透析医療の黎明期より先進的な透析医療が行われてきたことは冒頭に述べた通りです。我々はこれを誇りに思い、活動を記録にとどめ顕彰する時期にあると考えます。この素晴らしい歴史をふり振り返りつつ、多くを学び、将来の発展に資することが重要です。府民の保健・福祉の向上に寄与するという本会の理念実現のために活動する所存ですので、日本透析医会の会員の先生方からのご支援、ご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。